

育成項目		到達レベル			
		コーチⅠ	コーチⅡ	コーチⅢ	コーチⅣ
人間力	セーリングの魅力（楽しさ）発信	対象者に対して、セーリングの魅力（楽しさ）を伝えることができる。	セーリングに関わりのない人々に接した際に、セーリングの魅力（楽しさ）を発信できる。	セーリングに関わりのない人々にも積極的に働きかけ、セーリングの魅力（楽しさ）を発信できる。	セーリングに関わりのない人々にも積極的に働きかけ、セーリングの魅力（楽しさ）を発信できる。また、 <u>関連コーチにセーリングの魅力（楽しさ）の発信とそのノウハウを伝達できる。</u>
	スポーツマンシップ・シーマンシップ	スポーツマンシップとシーマンシップの意味や価値を、自らが理解した行動ができる。さらに、 <u>対象者に、スポーツマンシップとシーマンシップの意味や価値を説明できる。</u>	←	スポーツマンシップとシーマンシップの意味や価値を、自らが理解した行動ができる。さらに、 <u>対象者に、スポーツマンシップとシーマンシップに則った行動を自発的に行えるように導ける。</u>	スポーツマンシップとシーマンシップの意味や価値を、自らが理解した行動ができる。さらに、 <u>対象者や関連コーチに、スポーツマンシップとシーマンシップに則った行動を自発的に行えるように導ける。</u>
	選手の成長	なし	セーリングを通じて、対象者が人間的に成長していることを理解できる。	セーリングを通じて、対象者が人間的に成長しているポイントを観察でき、 <u>対象者をリスペクト（尊敬・尊重）できる。</u>	セーリングを通じて、 <u>対象者と自分が、お互いにどのよう</u> に成長しているかを、リスペクト（尊敬・尊重）の気持ちをもって共有できる。
	他フリート、第三者や外部への丁寧な対応	なし	自分達と異なるフリートや、海上で働く人、セーリングに関わっていない他者からの依頼を快く受け入れられる。	自分達と異なるフリートや、海上で働く人、セーリングに関わっていない他者からの依頼や受入れに <u>丁寧な対応ができる。</u>	自分達と異なるフリートや、海上で働く人、セーリングに関わっていない他者への依頼や受入れに丁寧な対応ができる。また、 <u>丁寧な対応方法を関連コーチに指導できる。</u>
	コーチングコミュニティの形成	コーチには、セーリングスキルよりも人間力が大切であることを理解できる。	自らの成長のために関係するコーチやスタッフの特性を理解して、 <u>協業できる。</u>	関係するコーチやスタッフの特性やスキル(良いところ/今後育成すべきところ)を把握し、 <u>お互いの成長に向けて支援やアドバイスができる。</u>	←
コーチング/ リーダーシップ	コーチング（コミュニケーションスキル）	コーチング時に使用する相手の気持ちを引き出せる態度、傾聴、質問、受止めのコミュニケーションスキルの必要性を理解し、対象者の指導実施時にチャレンジできる。	←	コーチング時に対象者や関係するコーチの気持ちを引き出す態度、傾聴、質問、受止めのコミュニケーションスキルを理解し、 <u>幅広い場面で実践できる。</u>	コーチング時のみならず、幅広い場面で相手の気持ちを引き出す態度、傾聴、質問、受止めのコミュニケーションスキルを <u>自由に活用できる。また、関連コーチに指導できる。</u>
	対象者及びコーチングスタッフマネジメント	対象者のセーリング(練習)を実施するために、統括コーチが対象者とコーチングスタッフに指示した役割分担や具体的実施内容、その目的を理解した上で、自分の役割を実行できる。	←	対象者のセーリング(練習)を実施するために、 <u>統括コーチとして、対象者とコーチングスタッフに役割分担や具体的実施内容を提示し、全体をマネジメントできる。</u>	対象者のセーリング(練習)を実施するために、対象者とコーチングスタッフに各々の役割分担や具体的実施内容を提示し、全体をマネジメントできる能力を持ち、 <u>関連コーチに指導できる。</u>
	対象者に応じたリーダーシップ（有能なコーチング）	対象者の意欲や、スキルレベルに合わせたコーチングスタイルに自らの行動を変化させる必要があることを理解できる。	対象者の意欲や、スキルレベルを関係するコーチと相談して <u>正しく把握したり、それに合わせたコーチングスタイルに自分の行動を変化させるチャレンジ</u> ができる。	対象者の意欲や、 <u>スキルレベルを正しく把握でき、それに合わせて自らのコーチングスタイルを変化させることができる。</u>	対象者の意欲や、スキルレベルを正しく把握でき、それに合わせて自らのコーチングスタイルを変化させることができる。また、 <u>関連コーチに指導できる。</u>
セーリングの基礎	J S A F 指導者育成フレームワークと役割	JSAF指導者育成体系の枠組みと自分が持つ資格のコーチ役割を理解して行動できる。	JSAF指導者育成体系の枠組みと各層のコーチ役割、 <u>コーチングフレームワークサイクルを理解して行動できる。</u>	JSAF指導者育成体系の枠組みと各層のコーチ役割、 <u>コーチングフレームワークサイクルを理解し、関係性を意識して他コーチへの支援を含めた行動</u> ができる。	JSAF指導者育成体系の枠組みと各層のコーチ役割、 <u>コーチングフレームワークサイクルを関連コーチに説明し、指導</u> できる。
	セーリング競技規則（RRS）	なし	RRSの定義を正しく理解し、 <u>対象者がおこしたインシデントに、どの規則が適用されるか、どの様なことに留意すればよいかを、ルールブックやケースブックを活用し対象者の抗議提出を支援</u> できる。	←	規則の概要を正しく理解し、 <u>抗議提出の可否を対象者にアドバイス</u> できる。また、 <u>抗議に関する手順を理解し、作成した抗議書のチェックや審問準備の支援</u> ができる。
	セーリングに関するスポーツ医科学	なし	対象者の体力の消耗度や筋力、健康状態に対応した栄養補給の基礎を理解している。	対象者の心身の状態を調整・制御する基礎的な知識を保有している。 対象者の体力の消耗度や筋力、健康状態に対応した栄養補給の基礎を理解している。	対象者の心身の状態を調整・制御する基礎的な知識を理解し、 <u>専門家のサポートにより、トレーニングに盛り込める。</u> 対象者の体力の消耗度や筋力、健康状態、 <u>栄養補給状況を把握し、対象者が練習や大会で必要とする体力や筋力、健康状態に応じた栄養補給を、専門家のサポートにより、提供</u> できる。
	気象と海象	天気図等の情報や、現地の気象、および海象概況を収集して、一般的な練習環境のリスクを予測できる。	←	収集した気象概況や現地の気温、気圧、雲の動き、潮流、波の様子などの変化を見て、 <u>環境のリスク予測をし、対応</u> できる。	収集した気象概況や現地の気温、気圧、雲の動き、潮流、波の様子などの変化を見て、 <u>環境のリスク予測をし、対応</u> できる。また、 <u>その土地の形状による特性を理解し、風向や風速の変化を、対象者に助言</u> できる。

育成項目		到達レベル			
		コーチⅠ	コーチⅡ	コーチⅢ	コーチⅣ
安全	コーチボート操船	バッジテスト海上検定に必要なマークの設定ができる。	対象者が練習可能な天候時には、対象者の練習のために必要な、 <u>マーク設置や曳航、並走、追跡、着艇などの操船</u> を、安全かつスムーズにできる。	対象者の練習のために必要な、 <u>マーク設置や曳航、並走、追跡、着艇などの操船</u> を、 <u>荒天時でも安全かつスムーズに</u> できる。また、対象者が練習可能な天候時には、対象者の帆走を一人で操船しながら映像や写真に記録できる。	対象者の練習のために必要な、 <u>マーク設置や曳航、並走、追跡、着艇などの操船</u> を、 <u>荒天時でも安全かつスムーズに</u> できる。また、 <u>荒天時でも、対象者の帆走を一人で操船しながら映像や写真に記録</u> できる。
	対象者とコーチングスタッフの救助と保護	同乗者と協力して海上にいる対象者、およびコーチの身体を安全にコーチボートに救助(回収)する <u>方法を理解</u> できる。	←	同乗者と協力して海上にいる対象者、およびコーチの身体を安全にコーチボートに救助(回収)できる。 <u>また、対象者、同乗者と協力して沈艇を起こして回収</u> できる。	自らが一人で海上にいる対象者、およびコーチの身体を安全にコーチボートに救助(回収)できる。 <u>また、同乗者と協力して管理・支援対象の複数の沈艇を回収</u> できる。
	沈起こし	対象者が練習できる風域で、対象者と協力して沈起こしが実施できる。 バッジテスト海上検定の沈起こし項目について、対象者を評価できる。	対象者が練習できる風域で、 <u>対象者に代わって、沈起こし</u> が実施できる。 バッジテスト海上検定の沈起こし項目について、対象者を評価できる。	対象者に対して、練習できる <u>全風域(含む荒天時)</u> で、 <u>対象者や関係するコーチに対して、沈起こしが実践を含めて、実施・指導</u> できる。	←
	安全備品	セーリングセンターやクラブ、コーチボートに必要な安全備品とその格納場所を理解し、それぞれの活用方法を知っている。また、統括コーチの指示に従い、各備品が常に機能するようにチェックできる。	←	セーリングセンターやクラブ、コーチボートに必要な安全備品の必然性とその格納場所を理解し、それぞれを活用できる。 <u>また、各備品が常に機能するような定期的チェック方法を関係するコーチに指導</u> でき。	←
	練習環境のリスクと評価	統括コーチが作成したチェックシートをもとに、リスクを客観的に想定できる。	←	対象者の実力や特性、現地のセーリング環境特性を把握し、 <u>標準フォームを基に、独自のリスクチェックシートを作成</u> できる。また、作成したチェックシートをもとに、リスクを客観的に想定できる。	対象者の実力や特性、現地のセーリング環境特性を把握し、 <u>標準フォームを基に、独自のリスクチェックシートを作成</u> できる。また、作成したチェックシートをもとに、 <u>リスクを客観的に想定できる。関連コーチにチェックリスト作成方法を指導</u> できる。
	応急処置	一般的な怪我に対しての、対処方法を理解している。	水上や陸上で発生した怪我などに対しての、 <u>対処方法を理解</u> している。	水上や陸上で発生した怪我などの対処方法を理解し、 <u>コーチボートやハーバーに備えられた安全備品を使って、統括コーチと一緒に応急処置</u> ができる。	水上や陸上で発生した怪我などに、 <u>コーチボートやハーバーに備えられた安全備品を使って、応急処置</u> ができる。
	応急処置/緊急対応	水上や陸上で発生した怪我などに対しての、対処方法・応急手当を理解している。 心肺停止などの事故が発生した際に、7～10分以内を意識し、事前に策定した手順に基づき、緊急連絡ができ、気道確保や胸骨圧迫、AEDを使った一次救急救命処置を正しくできる。また、協力者を要請できる。	水上や陸上で発生した怪我などの対処方法・ <u>応急手当を理解し、コーチボートやハーバーに備えられた安全備品を使い、統括コーチに協力して応急処置</u> ができる。 心肺停止などの事故が発生した際に、7～10分以内を意識し、事前に策定した手順に基づき、緊急連絡ができ、気道確保や胸骨圧迫、AEDを使った一次救急救命処置を正しくできる。また、協力者を要請できる。	水上や陸上で発生した怪我などに、 <u>コーチボートやハーバーに備えられた安全備品を使い、応急処置</u> ができる。 <u>心肺停止などの事故が発生した際に、7～10分以内を意識し、事前に策定した手順に基づき、緊急連絡ができ、気道確保や胸骨圧迫、AEDを使った一次救急救命処置を正しく</u> できる。 <u>また、周りのメンバーに支援を指示</u> できる。	←
セーリングスキル	艦装	なし	自らが安全を意識し、 <u>標準的な艦装</u> ができる。 <u>バッジテスト海上検定で、艦装に関する項目について、対象者を評価</u> できる。	←	自らだけでなく、 <u>対象者が効率的に当日のセーリング環境を意識した艦装</u> ができるように指導できる。
	操船	ヘルムと5エッセンシャルに関する基本操作を理解している。 バッジテスト海上検定に必要な艇操作項目について、対象者を評価できる。	←	ヘルムと5エッセンシャルに関する基本操作を理解し、 <u>対象者にその指導</u> ができる。 バッジテスト海上検定に必要な艇操作項目について、対象者を評価できる。	ヘルムと5エッセンシャルに関する基本操作を理解し、 <u>艇の操作性(艦装・スピードを含む)が向上する方法を指導</u> できる。
	セールトリム	セールの基本的な調節方法を理解している。 バッジテスト海上検定に必要なセール調節項目について、対象者を評価できる。	←	セールの基本的な調節方法を対象者に <u>指導</u> できる。 バッジテスト海上検定に必要なセール調節項目について、対象者を評価できる。	セールの調節に関する方法を対象者に指導でき、 <u>5エッセンシャルと組み合わせて指導</u> できる。
	『JSAFセーリングテキスト』と実施手順の理解	セーリングスキル習得に必要な要素と手順を一部理解している。	セーリングスキル習得に必要な全要素と <u>手順の一部</u> を理解し、対象者に適切に指導できる。	セーリングスキル習得に必要な全要素と <u>各々の手順</u> を理解し、対象者に適切に指導できる。	←

育成項目		到達レベル			
		コーチⅠ	コーチⅡ	コーチⅢ	コーチⅣ
育成プラン	学習ニーズ把握と目標設定	なし	対象者の求める目標を達成するスキルレベルをイメージでき、分析手法に基づき、把握した対象者の現状スキルレベルとの隔たり（GAP）をおおまかに明確化できる。	対象者の求める目標を達成するスキルレベルをイメージできる。また、分析手法に基づき、把握した対象者の現状スキルレベルとの隔たり（GAP）を具体的に抽出できる。	←
	育成プランの策定	なし	設定した目標を達成するため、標準的育成プラン策定手順を活用して、JSAF標準シラバスから必要な指導方法を選択し、中長期から短期までの育成プランを策定できる。	←	設定した目標を達成するため、標準的育成プラン策定手順を活用して、JSAF標準シラバスから必要な指導方法を選択し、中長期から短期までの育成プランを策定できる。また、策定方法を関連コーチに指導できる。
	育成諸段階に応じた達成可能な目標調整	なし	なし	対象者の育成結果と育成プランの隔たり（Gap）が大きくなった場合、対象者の現状レベルを正しく把握した上で、育成プランを見直し、手が届く目標に調整できる。	対象者の育成結果と育成プランの隔たり（Gap）が大きくなった場合、対象者の現状レベルを正しく把握した上で、育成プランを見直し、手が届く目標に調整できる。また、対象者に対応した目標調整を関連コーチに指導できる。
	育成に必要なスタッフの確保	なし	育成プラン実現には、どのようなスタッフを確保する必要があるかを理解できる。	数多くのスタッフのスキルレベルを収集し、育成プランを実現するために、必要なスタッフを確保できる。	数多くのスタッフのスキルレベルを把握し、育成プランを実現するために必要なスタッフを確保できる。また、育成プランを実現するスタッフのスキルアップ支援ができる。
	対象者の分析	なし	セッションや育成プログラムを対象者が実施した結果、目標を達成できた部分とできなかった部分を抽出し、定量的に達成状況を分析する手法を理解している。	セッションや育成プログラムを対象者が実施した結果、目標を達成できた部分とできなかった部分を抽出し、定量的に達成状況を分析できる。	セッションや育成プログラムを対象者が実施した結果、目標を達成できた部分とできなかった部分を抽出し、定量的に達成状況を分析できる。また、分析方法を関連コーチに指導できる。
	実施したセッションやプログラムの評価	なし	分析結果を基に、実行したセッションや育成プログラムの良かった点、修正が必要な点を抽出できる。	分析結果を基に、実行したセッションや育成プログラムの良かった点、修正が必要な点を抽出でき、どの様に改定すれば、良いかを検討できる。	分析結果を基に、実行したセッションや育成プログラムの良かった点、修正が必要な点を抽出でき、どの様に改定すれば、良いかを検討できる。また、関連コーチに指導できる。
練習実施	目的合わせた練習場所の選定	なし	練習環境のリスク評価シートに基づき、当日のセッション目標を達成しやすい練習場所を自らが選定できる。	練習環境のリスク評価に基づき、当日のセッション目標を達成しやすい練習場所を選定できる。また、関係するコーチに指導できる。	←
	能力/課題に応じた道具の選択	統括コーチの指示に基づき、対象者に適した練習を実現できる道具を用意できる。	対象者に適した練習を実現できる道具を選択でき、用意できる。	←	対象者に適した練習を実現できる道具を選択でき、用意できる。また、関連コーチに指導できる。
	技能の実演とニーズへの対応（学習スタイル）	対象者に習得させたい技能のポイントを、統括コーチの支援のもと、自らが実演したり、高技能者の映像を提示したりできる。	対象者に習得させたい技能のポイントを、自らが実演したり、高技能者の映像を提示したりでき、手順やそのコツを整理して説明できる。	←	対象者に習得させたい技能を、自らが実演したり、高技能者の映像を提示したりでき、手順やそのコツを整理して説明できる。また、関連コーチに指導できる。
	育成すべきスキルの特定と具体的方法	統括コーチから指示のあったスキル育成について、対象者を育成できる練習(セーリング)環境を提供できる。	対象者のスキルについて、レース(競技)の各場面で必要になるスキルを想定し、それを育成できる練習(セーリング)環境を提供できる。	対象者のスキルについて、シラバスから抽出/分解整理したあるべき姿と対比し、レース(競技)の各場面で必要になるスキルを特定し、それを育成できる練習(セーリング)環境を提供できる。	対象者のスキルについて、シラバスから抽出/分解整理したあるべき姿と対比し、レース(競走)の各場面で必要になるスキルを特定し、それを育成できる練習(セーリング)環境を提供できる。さらに、上記育成スキルを関連コーチに指導できる。
	観察と記録	練習テーマと目標を踏まえ、対象者のセーリング(練習)を、目標を対比して観察できる。	練習テーマと目標を踏まえ、対象者のセーリング(練習)を観察し、目標映像を対比できるように、統括コーチから指示されたとおりに対象者の動作や5エッセンシャルの状態を映像や写真に記録できる。	練習テーマと目標を踏まえ、対象者のセーリング(練習)を観察し、目標映像を対比できるように、適切な場所を自らが選択して、対象者の動作や5エッセンシャルの状態を映像や写真に記録できる。	練習テーマと目標を踏まえ、対象者のセーリング(練習)を観察し、目標映像を対比できるように、適切な場所から対象者の動作や5エッセンシャルの状態を映像や写真に記録できる。また、関連コーチに指導できる。さらに、一人で対象者の帆走をコーチポートを操船しながら映像や写真に
	評価とフィードバック	練習記録の中から、映像やイラストを対象者に見せ、自分の状況を認識させることができる。	練習テーマと目標を踏まえ、練習記録の中から必要なものを抽出し、映像やイラストを対象者に見せ、自分の状況を認識させることができる。	練習テーマと目標を踏まえ、練習記録の中から必要なものを抽出し、映像やイラストを対象者に見せ、目標にする動作や上手くできている時と、上手くできていない時の異なる点を抽出・整理し、改善方法をフィードバックできる。	練習テーマと目標を踏まえ、練習記録の中から必要なものを抽出し、映像やイラストを対象者に見せ、目標にする動作や上手くできている時と、上手くできていない時の異なる点を抽出・整理し、改善方法をフィードバックできる。また、評価とフィードバック方法を関連コーチに指導できる。
ブリーフィング	ブリーフィングの価値や必然性を理解し、ブリーフィングに必要な準備ができる。	ブリーフィングの価値や必然性を理解し、統括コーチの支援を受け、対象者が当日の練習(セーリング)内容、その目的、本人にとっての価値などの一部を説明できる。	ブリーフィングの価値や必然性を理解し、対象者が当日の練習(セーリング)内容、その目的、本人にとっての価値などを、ツールを使って短時間で理解できるように説明できる。	ブリーフィングの価値や必然性を理解し、対象者が当日の練習内容、その目的、対象者にとっての価値などを、ツールを使い短時間で理解できるように説明したり、対象者の意見も取り入れた準備ができる。また、関連コーチに指導できる。	

育成項目		到達レベル			
		コーチⅠ	コーチⅡ	コーチⅢ	コーチⅣ
練習実施	デブリーフィング	デブリーフィングの価値や必然性を理解し、必要な環境設定や準備ができる。	デブリーフィングの価値や必然性を理解し、必要な環境設定や準備を行い、 <u>対象者が設定した練習目標の到達状況を共有できる。</u>	デブリーフィングの価値や必然性を理解し、必要な環境設定や準備ができる。また、対象者が設定した練習目標の到達状況をツールを使い、 <u>上達した者のコツや工夫を理解できるように共有できる。</u>	デブリーフィングの価値や必然性を理解し、必要な環境設定や準備ができる。また、対象者が設定した練習目標の到達状況をツールを使い、 <u>上達した者のコツや工夫を短時間で理解できるように共有できる。さらに、関連コーチに指導できる。</u>
	大会出場	出場手続と準備	なし	統括コーチの指示に基づき、 <u>大会に出場するチーム(対象者を含む)の、事前練習、出場手続、艇や備品の確保、レース参加に必要な準備の一部を分担できる。</u>	国内大会に出場するチーム(対象者を含む)の、事前練習、出場手続、艇や備品の確保、レース参加に必要な準備と手配を計画し、 <u>関係するコーチやスタッフ等に役割を分配して、全体を統括できる。</u>
	遠征（出発から帰宅）への帯同	なし	統括コーチの指示に基づき、 <u>国内大会に遠征するチーム(対象者を含む)に帯同し、出発から帰郷までの期間に、安全と期待成果を担保できるサポートの一部を実行できる。</u>	国内大会に遠征するチーム(対象者を含む)に帯同し、計画に基づき、 <u>出発から帰郷までの期間に、安全と期待成果を担保できるサポートを、関係するコーチやスタッフを統括し、一緒に実行できる。</u>	国際大会に遠征するチーム(対象者を含む)に帯同し、計画に基づき、 <u>出国から帰国までの期間に、安全と期待成果を担保できるサポートを、関連コーチやスタッフを統括し、協働できる。</u>
自己の学習と成長	コーチの自己成長（自己観察と反省）	なし	<u>自己成長のために、自分をふりかえることの重要性を知る。</u>	自己のスキルを客観的にとらえ、 <u>良い点や、さらに伸ばすべき点を抽出し、成長のためのチャレンジができる。</u>	自己のスキルを客観的にとらえ、 <u>良い点や、さらに伸ばすべき点を抽出し、成長のためのチャレンジができる。また、関連コーチに実施方法を説明できる。</u>
	コーチング能力開発の継続（学びの継続）	指導者資格取得後も、 <u>学びを続けることを意識している。また、上位資格取得へのチャレンジを目指している。</u>	←	対象者と自分が共に成長し続けることを意識して、 <u>自己成長に必要なコーチングスキルに留まらず、人間力を向上させるために、学習したり、他のセーリングコーチとの交流を継続的に持つことを実践している。また、上位資格取得へのチャレンジを目指している。</u>	対象者と自分が共に成長し続けることを意識して、 <u>自己成長に必要なコーチングスキルに留まらず、人間力を向上させるために、幅広い分野との交流や学習を継続的に持つことを実践している。また、関連コーチたちの成長のためのサポートができる。</u>
	育成プログラムの革新	なし	<u>対象者の活動プロセスや成果をもとに、育成プログラムの課題を抽出できる。</u>	対象者の活動プロセスや成果をもとに、 <u>育成プログラムを、より効率的効果的なプログラムに改定できる。</u>	<u>対象者の活動プロセスや成果、自己啓発、外部との交流などにより得た情報をもとに、育成プログラムに新たなコンピテンシーの追加や、レベルの修正等で、より効率的効果的なプログラムに革新できる。</u>
黄色のハッチングはWorld Sailingと同一項目		<u>下線部が下位レベルとの違い</u>			